

躍進する富山県選手【富山から世界へ】

第4回女子ユースハンドボール世界選手権を経験して～

富山県立氷見高等学校 3年 森 優稀

私は、8月にモンテネグロで開催された第4回女子ユース世界選手権大会に出場しました。

私は世界選手権でどれだけ自分のプレーが通用するのか試せる機会であり、とても楽しみでした。予選リーグは、前大会準優勝のノルウェーに加え、ブラジル・ポルトガル・アンゴラのグループでした。初戦のブラジル戦には、緊張がありながらも勝利することができ、いいスタートがきれました。次の相手は強豪のノルウェーでした。さすがに、体格・パワー・スピードが違い、世界の壁は大きく立ちはだかり、負けてしまいました。世界の強さを感じさせられた試合でした。気持ちを切り替え、次のポルトガル戦に臨みました。自分の持ち味であるスピードを生かしたカットインプレーが決まり、小さくても出来るということを見せつけることができました。この試合で私は、ベスト選手賞を頂きました。そして、予選リーグ最後のアンゴラ戦にも、日本らしいねばりのあるプレーで勝利し、ベスト8に入りました。ここまできたらベスト4入りを目指すと高い目標を持ち、決勝トーナメントに進みました。

決勝トーナメントは、厳しい戦いが続きました。身長が大きくても走って守れるチームばかりで、小柄な日本チームが体を張っても簡単に得点したり、守ったりして、外国の選手の力に勝つことができませんでした。しかし、試合を通してチームとしても個人としても成長して戦うことができました。今大会20カ国中、8位という結果を残せたのも、スタッフの皆さんをはじめ、一緒にプレーした仲間そして、応援して下さった皆さん、支えてくれた皆さんのおかげです。

私はこの大会を通して、小さくても通用するという自身と、日の丸を背負うことの重大さを感じました。この経験を今後生かし、小さくても負けない体づくりとハンドボールにおける技術の修得を目指し、日々の練習に努めていきたいです。そして、世界で活躍できる選手になりたいです。

